

## 第4回東金市学校給食施設のあり方検討会

### 【議事要旨】

- 1 日時 令和5年2月20日（月）15:00～16:30
- 2 場所 東金市役所第1庁舎3階第1委員会室
- 3 出席した委員（敬称略）  
上野高志、佐久間治行、石川和彦、木河政浩、野老知子、笠原利佳  
在原 徹、佐藤 愛、猪野真理子、篠原水紀、大桃義則
- 4 欠席した委員（敬称略）  
栗畑克朗
- 5 出席職員  
石川教育長、長尾教育部長  
新田学校教育課長、加藤学校教育課指導係主査  
矢崎教育総務課長、小倉教育総務課副課長、石橋教育総務課施設整備係長
- 6 会議次第

1 開 会
2 議題について 東金市学校給食施設のあり方に関する検討結果について（案）
3 その他
4 閉 会
- 7 議事要旨（質疑応答・意見等）  
会議次第2 議題について  
資料4「学校給食施設更新の目指すべき方向性について」に基づいて意見  
聴取

◆小学校の給食施設については、安全で安心な学校給食を提供するため、速やかに学校給食衛生管理基準に適合した施設に建替えることが必須である。センター方式での更新を軸に、課題とされた食物アレルギー対応や食育の推進策等について、これまで協議してきた自校方式の良さを十分引き継いだ施設とすることがポイントとなる。この検討結果の素案には、本文の他、センター方式による施設更新が妥当であるとの意見集約を行ううえで重要となる要望事項も記載

されているので、建設的な意見を頂戴したい。

◆意見書の基本的な考えに、保護者や市民、教職員など広く意見を聞く場を持っていただくこと、また、自校方式や親子方式を否定するものではない事も記載いただきたい。給食は全ての児童・教職員が毎日関わる大事な活動であり、調理方式の変更は教育活動にも大きく影響する。また、給食関係で経済活動を行っている業者、調理員などの関係者も多い。

◆広く意見を聞く場がこの検討会であると認識しているがいかがか。

◆自校方式の良さについては理解しているが、これまで様々な議論を行ってきたなかで、検討会としては、総合的に考えた場合、センター方式による更新において、自校方式の良さを最大限盛り込むことを方向性として示したところである。

そのうえで、今の指摘については、これから具体的な整備を進めるなかで、しっかりと基本方針の中に反映していく必要があると考える。

◆調理終了後、2時間以内の喫食が望ましいとされているが、センターの候補地はどのようになっているのか。候補地が絞られるなどの動きはあるのか。

⇒候補地について、市内であれば2時間以内の配送は可能であると考えている。候補地にかかる進展は特にはない。

◆No.1施設整備について、各学校に配膳室の整備をしていただきたい。

No.2衛生管理について、各学校に配膳担当者を配置していただきたい。

No.4提供温度・喫食までの時間について、給食を適温管理するため、温冷蔵庫を各学校に設置していただきたい。

No.5食物アレルギー対応について、誤食防止のため、献立作成・調理・配食・受け入れ・喫食の各段階において十分な人員を配置していただきたい。

⇒要望事項等については、座長と協議し、可能な限り反映したいと考えている。

◆No.1施設整備について、「学校給食衛生管理基準及び大量調理施設衛生管理マニュアルに適合する施設を整備し、HACCPに基づく衛生管理を行うこと」の方がよいのではないか。

No.2の衛生管理について、「管理者」とは何を指しているのか。また、調理委託業務は、しっかりとした衛生管理ができる業者を選定していただきたい。

No.3献立内容について、幼稚園と小学校で献立の他、調理も別に行うことが望ましい。幼稚園の給食時間が異なることや、分割することで調理時間の短縮が可能であり、食中毒防止にもつながる。また咀嚼能力の違いもあり、幼稚園では出せないものが小学校では提供できるメリットもある。

No.4の提供温度について、十分な数の配送車を用意していただきたい。

No.5の食物アレルギーについて、新たなマニュアルの作成が必要となる。除去食・代替食の提供とあるが、完全除去食が前提であり、児童の安全を最優先に、人員・施設面を考慮し無理な対応は行わない事が望ましいと考える。

No.6食育の推進について、給食管理やアレルギー対応などで、食育まで手が回らないことが想定される。食育を円滑に実施するため、市教育委員会が中心となって、体制を整備し、食育の機会を失わないようにしていただきたい。

⇒アレルギー対応などは、子どもの安全に関わる問題であるが、基本的な考え方ということで整理しているので、その点をご承知おきいただきたい。なお「管理者」とは、センター長をイメージしている。記載内容については、座長と協議したいと考えている。

◆今ここで即答することは難しいが、貴重な意見であるので、表現も含めて検討していきたい。

◆小学生と園児では、咀嚼能力等が違うので、献立の分割という話があったが、事務局はどのように考えているのか。

⇒食材を細かくするなどの対応は、当然考えていかなければならないが、別々の献立を作るとなると敷地課題の他、厨房の設置条件、幼稚園の園児数と小学校の児童数で分けることができるのか難しい状況がある。

◆子どもの命にかかわることであり、園児の嚥下能力を踏まえ、食材調理には、十分な人員配置をしていただきたい。

◆施設更新に当たっては、様々な部分で具体的な対応が求められる。今後も継続して、栄養教諭の意見を聞きつつ対応いただきたい。

◆センター方式における大きなメリットは、コストであると考えている。配膳室の整備や温蔵庫、配膳担当者など必要な機材・人員配置などが挙げられている。そうした場合、トータルコストが大きく変わってくることも想定される。コスト面も引き続き、検討していく必要があると考える。

◆幼稚園の給食を作るうえで、大変な苦労があることを実感している。食べられないもの、出しづらいものもある中で、学校の栄養士の方からは、様々な配慮をいただいている。センター方式となった場合でも、幼稚園担当の栄養士の配置を是非お願いしたい。小学校の栄養士との情報共有も可能となる。

◆それでは、これまでの意見を整理し、最終案を各委員に確認いただいた後に、私から教育長に提出させていただく。

これまで4回にわたって検討会を開催し、各委員の協力により、検討会としての意見を示すことができた。改めて各委員から感想をいただきたい。

◆センター方式での施設更新に進んでいくと考えているが、落ち着くまでにはきっと様々な課題があると思う。栄養士や現場経験のある方の声を吸い上げることが必要であるので、これが終わりではない。今後ともよろしく願いたい。

◆自校方式の良さである出来たての美味しい給食の提供、きめ細やかな食物アレルギー対応、栄養教諭による食育、その点を新しい施設でも可能な限り実現できるようにしていただきたい。

また有事の際の炊き出しの施設として、利用できる可能性もあるので、その点についてもお考えを聞きたい。いずれにしても、子どもたちのために考えていただき、感謝申し上げます。

◆小学校と中学校で、自校方式・センター方式の両方を経験しており、それぞれのメリット、デメリットの中で、個人としては自校方式の方が優れていると感じている。しかしながら、施設設備面やコスト面においてはセンター方式の方が優位であることから、センター方式にせざるを得ないと考えている。

センターの建設場所によって、必要な配送車や人員も変わってくる。配送車も更新が必要となるので、そういったことも含めたうえで、コスト面での優位性があることをこれからしっかり示していただきたい。

ここまでの議論の中で、たくさんの貴重な意見が出されたので、自校方式の良さを取り入れた施設にしていきたい。今後、細かく進めていくにあたっては、特に栄養士会との連携をお願いしたい。

子どもたちと保護者の方、地域の方にとってより良い給食、全国的にアピールできるような給食にしていきたい。

◆東金市の学校給食は美味しいので、センターになったとしても変わらない美味しい給食が続くことを願っている。

◆栄養士の方や校長先生方の貴重な意見をたくさん伺うことができた。子ども達も、給食を楽しみにしており、月末に届く学校の献立表を見て、この日は楽しみだとか、自分たちのリクエスト給食が出るとか、給食の話が家庭でも出ている。センター方式になっても、子どもたちの楽しみが奪われないような給食を作っていただきたい。また安心安全な給食を提供していただきたい。自校給食の良さを引き継ぎつつ、センター方式でも子どもたちが楽しめる給食を提供していただければと思う。

◆持続可能な学校給食の提供という言葉が大きなキーワードだと感じた。その持続可能な学校給食の提供体制が崩れると子どもたちの安全で楽しい給食が崩れてしまうと思う。

電気代が値上がりしており、調理にかかるコストも考えた場合、電気代のかからない最新の設備などの導入も検討していただきたい。

また、人材の部分で、どこの業界も働き手が足りない問題がある。いずれの調理方式でも、調理員が揃わないと子どもたちに給食が提供できなくなる。

他の自治体では調理場にエアコンがなく、調理員の多くが体調不良となった事案がある。快適な労働環境を作っていないと、子どもたちの給食は担保されない。現場で働いている調理員さんたちの声も、参考にしていきたい。

◆研究者という立場で、自校方式、センター方式について、文献も概観したが、調理員の意識調査などでは自校方式の方が食育、衛生面の意識が高いという結果が出ている。自校方式を希望する意見も多いが、コストの面ではセンター方

式に向かっていくと思っている。保護者や市民といった当事者の意見を聞く機会を設けていただきたいと感じた。

◆検討会としては、給食センターの方向として意見を述べると思うが、最終決定する前に保護者や関係者に説明をする機会を設けていただきたい。

◆これまでセンターで勤務していたので、東金市の自校方式の良さを実感している。自校方式だとその場で給食をつくることで学べるものがたくさんある。施設の老朽化については、どの自治体でも課題となっている。安全な給食を提供するうえで、老朽化した施設で出すのであれば、新しいセンターの方がいいのではないかといいジレンマもある。施設を整えても、より良い給食を出していくためには、人が大切だと思う。施設面でコスト削減した分で、人員や維持管理の環境を作っていただきたい。

◆お集まりいただいた委員の皆様方と、これからの東金市の学校給食をどのようにしていくべきか、率直な意見交換ができたことは、大変有意義であったと思っている。

それぞれの立場の中で、学校給食に求める理想の部分と、現実的な課題を議論したなかで、生み出された意見書となっている。引き続き、教育委員会において方向性を協議していくなかで、可能な限り理想に近づけていただく努力をお願いしたい。

それでは、最後に石川教育長、いかがでしょうか。

◆【石川教育長】上野座長をはじめ、各委員の皆様方におかれましては、本市の学校給食施設の現状、また学校給食の様々な課題について、豊富なご経験と専門的な見地から真摯に御議論をいただいたことについて、ここに改めて感謝を申し上げます。

それぞれの立場で様々な意見があるなかで、検討会として、大変難しい判断をしていただいたものと感じている。

教育委員会としては、この議論を活かし、子ども達に安定的に安心な給食が提供され、さらには衛生管理面の強化、食育の推進といったものが十分機能する施設となるよう進めてまいりたい。引き続きの協力をお願いしたい。